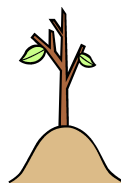


種時人

令和4年9月28日
深田小学校便り 19号



感動創造

教育は楽しむ能力を訓練することにある バートランド・ラッセル（哲学者）

20世紀最高の知性と評され「人はみな周到な努力によって幸福になれる」と言ったそうです。日本人は幸福について深く考えなくなったと何かの本で読みました。幸せになるために、自分で考える楽しみを大切にしたいと思います。

深田小学校運動会 9/25



晴天に恵まれ、運動会を実施できました。保護者の皆様には、児童の体調管理や当日の応援など、またPTA本部役員様には、前日の準備や当日の運営の手伝いなど、大変お世話になりました。児童たちは、今までの練習の成果を十分発揮し、生き生きと走り、いきいきと演技していました。児童たちのよい思い出になってくれれば幸いです。ある保護者の方から、「児童の一所懸命頑張る姿に元気をもらいました」との感想をいただきました。速い・速くない、うまい・うまくないという基準ではなく、精いっぱい努力する姿とやり切った笑顔等が素晴らしいということを、児童たちが改めて教えてくれた気がします。

「育ての心」という本の中から

昭和11年に出版されたこの本は、倉橋惣三によって著されました。



著書の序に「自ら育つものを育てせようとする心。それが育ての心である。世にこんな楽しい心があろうか。（中略）我が子を育てて自ら育つ親、子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。育ての心は子どもの為ばかりではない。親と教育者とを育てる心である」と書いてあるそうです。おとなは、親（おとな）の愛を感じさせ、子どもとの信頼関係を築いていくために共育（ともに学び）・協育（協力し）・響育（響き合いながら）・郷育（地域のことを学ぶ）に努めることが大切だと思います。やってはいけないのが恐育でしょうか。